

「デジタル放送時代の視聴覚障害者向け放送に関する研究会」
(第1回会合) 議事要旨

1 日時

平成18年10月23日(月)13時から15時

2 場所

総務省 第1会議室

3 出席者

(1) 構成員(五十音順、敬称略)

浅原重夫、荒井清実、岩下恭士、大戸正彦、音好宏、倉野公嗣、近藤則子、笹川吉彦、指川正、高岡正、高橋紘士、多田暁、堤靖芳、鶴淵哲男、寺島彰、畠山経彦、藤原一史、古川柳子、宮本一郎

(2) 説明者

平原株式会社テレビ和歌山取締役、林社団法人衛星放送協会事務局長

(3) オブザーバ

青木情報支援専門官(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課地域生活支援室)

(4) 総務省

寺崎政策統括官、勝野大臣官房審議官、松川情報通信利用促進課長、高田情報通信利用促進課課長補佐

4 議事概要

(1) 開会

(2) 総務省挨拶(寺崎政策統括官)

(3) 構成員紹介

(4) 開催要綱について

資料1の1について事務局より説明がなされた。

(5) 座長の選出及び座長代理の指名について

座長には高橋構成員が選出された。また、高橋座長より、座長代理として寺島構成員が指名された。

(6) 研究会の公開(案)について

資料1の2について事務局より研究会の公開について説明がなされ、以下の意見があった後、了承された。

【意見の内容】

- ・障害者のバリアフリーにかかわる研究会なので、視覚障害者のホームページへのアクセスがスムーズにいくように配慮してほしい。

(7) 議題

○字幕放送・手話放送の取組み紹介

資料1の3について畠山構成員からの発表、資料1の4について古川構成員からの発表、資料1の5について藤原構成員からの発表、資料1の6について平原株式会社テレビ和歌山取締役からの発表、資料1の7について林社団法人衛星放送協会事務局長からの発表の後、質疑応答をした。

【質疑応答の内容】

- ・番組へ字幕を入力する人材確保が困難であるとの指摘があったが、遠隔地にいる要約筆記者がテレワークで入力作業をすることが可能か否か検討してほしい。
- ・現在課題なのは、生放送番組へ字幕入力する人材の不足であり、生放送時には、入力者は送出作業の現場にいる必要がある。生放送番組への字幕入力作業をしているスピードワープロ方式では、入力するのに訓練が必要な特殊なキーボードを使用しており育成に時間がかかることから、東京でも人材が逼迫している状態。字幕入力するのに時間的余裕のある番組や、ローカル局での字幕入力には活用できるかもしれない。
- ・手話番組についても、割合を示してほしい。

○利用者の視点からの要望

資料1の8について宮本構成員からの発表、資料1の9について高岡構成員からの発表後、質疑応答をした。

【質疑応答の内容】

- ・総務省の資料では、字幕放送、解説放送、手話放送をまとめて「字幕放送・解説放送等」としているが、「字幕放送・手話放送・解説放送」とするのが望ましい。

(8) 今後の進め方

第2回の日程は11月中旬で調整することとなった。

(9) 閉会

以上